

議案第1号 令和4年度佐倉市一般会計歳入歳出決算の認定

宇田みおこは、予算執行の妥当性と市民ニーズに沿った期待のできる成果があつたかに着眼し、決算審査特別委員として4日間審議にあたった。

宇田反対

賛成19

賛成多数認定

反対8

さくら会(密本・望月・斎藤明美・敷根・村田・高木・篠田・平野・櫻井)
自民さくら(斎藤寛之・石井秀明・徳永・橋岡・山本)
公明党(長谷川・押木・鍋田)、高橋、三谷

※議長 岡村(公明党)

市民ネット(松島・伊藤・五十嵐)
共産党(石井昇・木崎)、稻田
無会派の会(三井・宇田)

※敬称略

宇田みおこの主な反対理由

- 令和4年度予算については、職員人件費上昇を理由に、県下高い400円の住民票発行手数料をはじめ、使用料手数料の値上げなどを含めた長期化するコロナ禍にあわせ、市民ニーズと合致しない事業が含まれていたため反対した経緯がある。
- 歳入約597億円(対前年度比1.1%)については、土地開発基金約16.4億円の取り崩し額を含んでいる。市民税は回復傾向にあったが、固定資産税に一律課税の都市計画税について、用途の明確化と現行上限0.3%の税率を見直し、市民の税負担軽減に努めて頂きたい。
- 歳出約569億円(同2.0%増)については、(仮称)佐倉図書館等新町活性化複合施設整備事業や、明神橋災害復旧事業の大幅増などによるものであり、今後もふるさと広場、里山自然公園などの事業費増額が見込まれる。既存公園整備、学校トイレ洋式化、学童保育所の整備など教育環境整備、通学路の安全対策、街路樹維持管理事業、道路維持管理事業などの充実に重点をおいた市民生活最優先の予算措置を講じることを求める。
- 経常経費は、コロナ禍によるイベント・行事などの縮小・中止などにもかかわらず増加、経常収支比率も92.6%と前年度比4.7%上昇。各事業の優先順位の見直し、行政コスト削減に努めること、国の交付税に依存するばかりではなく、自主財源確保に一層精進することを求める。

令和5年8月議会 宇田みおこ一般質問より一部抜粋

自治体運営の基本原則順守を

- 宇田** 地方自治では本来発生しにくい与野党関係が、当議会においては生じているのでは。
- 市長** 見解を申し上げることは差し控えるべきと考える。
- 宇田** 前議会では十分な説明資料の提出がなかった。議員の仕事を妨害したことになるのでは。
- 総務部長** 各常任委員会委員長等に相談し、できる限りの資料提供に努めてきた。今後についても同様。
- 宇田** 住民自治実現のための政策決定プロセスにおいて最も重要なものは何か。
- 市長** できるだけ多くの市民の意見を伺い、その意見を生かすことが重要。
- 宇田** 市立幼稚園廃止条例案上程に関し、予算執行権者そして議案提案者として、(前日の質疑で教育委員会の決定と答弁)無責任ではないか。
- 市長** 教育委員会案件であり、教育委員会の指針に基づき私が市長として議案を提出した形である。
- 宇田** 一般論として住民自治の観点から、佐倉市の政策決定のプロセスは妥当であると考えているか。
- 企画政策部長** 市民参加は適切かつ、妥当である。
- 宇田** 市立幼稚園廃止条例案は議員の私ですら、意見を言う場もない。保護者、私立幼稚園協会、行政が、一つのテーブルについて話し合うことすらしないままの廃園決定は、住民自治軽視と言わざるをえない。

住民自治軽視が明らかになった市立幼稚園廃止問題。急速な人口減少、少子化、高齢化。公共施設やインフラ施設の老朽化のため、今後、公共施設等の再配置が行なわれるが、再配置にあたっては、住民自治を重視、実践しなければならない。

加速する人口減少と少子化対策

- 宇田** 令和4年中人口動態は、佐倉市772人減少に対し、成田市626人、八千代市1,363人、四街道市375人、印西市2,320人の増加。減少の原因と現状は。
- 企画政策部長** 本市は、社会動態が464人の転入超過に対し、自然動態がマイナス1,236人であったため、全体として772人減という結果に。
- 宇田** 佐倉市人口ビジョンでは、2019年から5年間で5,215人減見込みに対し、4年間で5,238人も減少。少子化問題最大要因は、出産対象年齢女性の減少と非婚率の高さと考えるが、直近人口の推移は。
- 企画政策部長** 令和元年31,354人、令和2年34,000人、令和3年29,458人と減少傾向。
- 宇田** ①結婚支援施策として、国の地域少子化対策重点推進交付金を活用したAIマッチングシステムが有効。
②高等教育卒業後も市内に居住し、当市で就職をする方向け返済不要の奨学金制度や若者層への税の優遇措置が有効。
③空き家を市が借受け、公的住宅として安価に提供するなど、若者向け定住促進住宅整備などの施策が有効。
- 市民部長** ①引き続き調査研究を進めてまいりたい。
- 企画政策部長** ②経済的不安を理由に、結婚に踏み出せない若者がいる現状を受け止め、効果的な政策立案に向け、検討を進めたい。
- 都市部長** ③空き家バンク事業が順調。市が中古物件を借り上げる住宅の直接提供までは考えていない。

戦後78年 佐倉市の平和施策を問う

海軍の町として栄えた茨城県阿見町立『予科練平和祈念館』へ児童・生徒が訪問する平和施策をさくら会が代表質問で提案、市長は本市から一時間足らずの場所であり、平和事業の早期実施に向けた事を進める旨の答弁をされていたが、かつて佐倉市は連隊の町【明治7年日本最初の軍隊歩兵第二連隊(昭和19年殲滅)が佐倉に駐屯、明治42年歩兵第二連隊に代わって歩兵第五十七連隊(昭和19年殲滅)が佐倉に移転】であった。佐倉市広報課作成『伝えていきたい佐倉市の戦争と平和リーフレット』を活用した平和施策の実施を切に願う。

出典:佐倉市HPより一部転載

佐倉城址公園内連隊遺構マップ



市民のみなさんは、どう思いますか?

佐倉市HP⇒伝えていきたい佐倉市の戦争と平和リーフレット

佐倉市内戦争遺構マップ



佐倉市議会⇒議会中継⇒本会議録画配信⇒令和5年8月定例会⇒令和5年9月5日⇒宇田みおこ

●宇田 佐倉の魅力発信やイベントの活性化が、当市の最重要政策として適切か。魅力的な子育て環境を確実につくっていく政策を通じて、初めて持続可能なまち佐倉の実現が図られると考えるが、見解を。

●企画政策部長 人口の確保が最も重要。前期基本計画で子育て世代の流入、定住促進、子育て支援施策等の維持、拡充を重点目標として位置づけてきた。引き続き、子育て支援策の拡充を図り、市内外から評価、共感をいただけるまちづくりを進めていきたい。

●宇田 人口減少に対し徹底的に佐倉市の問題点の分析、洗い出し、マーケティングをもとに、政策立案実行するプロジェクトチームの新設が急務と考える。

●市長 人口減少は、少子高齢化とあわせ、本市喫緊の課題として整理し、総合計画及び総合戦略に位置づけている。府内横断的に組織された行政評価委員会のほか、外部委員による行政評価懇話会の意見を踏まえ適宜適切な見直しをされており、引き続き事務局のある企画政策部を中心に進めていきたい。

1年間に平均1000人以上人口が減少している。若年層の流出が大きな問題であり、市長のいう従来の方法は、もはや合理的ではないと考える。少子化対策課やプロジェクトチームを新設し、市全体のビジョンを明確にし、各課の少子化対策の問題点にアドバイスしながら、市全体として効果の上がるシステムづくりが肝要である。

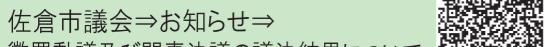
市民のみなさんは、どう思いますか?

宇田みおこHP udamioko.org



令和5年8月定例会 懲罰動議及び問責決議の議決結果

佐倉市議会⇒お知らせ⇒懲罰動議及び問責決議の議決結果について



件名	結果	宇田	採決状況
高橋議員に対する懲罰動議 ※懲罰特別委員会審査結果:陳謝の懲罰に科す	○	×	賛成:18 反対:8 宇田反対(訓告)
櫻井議員に対する懲罰動議 ※懲罰特別委員会審査結果:陳謝を科さない	○	○	賛成:23 反対:3
村田議員に対する懲罰動議 ※懲罰特別委員会審査結果:陳謝を科さない	○	×	賛成:20 反対:6 宇田反対(陳謝)
石井昇議員及び三谷議員に対する問責決議 ※原案可決	○	×	賛成:17 反対:8